

特集

自動車領域への挑戦

独自の強みで自動車の未来を拓き、新たな成長へ

page ▶ 03

デクセリアルズと株主の皆様をつなぐコミュニケーションマガジン

Dexerials Talk vol. 5

第6期 中間報告書 2017.4.1 – 2017.9.30

Contents

- 01 株主の皆様へ
- 05 デクセリアルズの製品紹介
熱伝導シート
- 07 株主様アンケート結果のご報告
- 09 連結財務ハイライト
- 裏表紙 会社概要・株式の状況・株主メモ

デクセリアルズ 株式会社

証券コード：4980

2018年3月期 中間期のご報告

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年3月期第2四半期累計期間(2017年4月1日～9月30日、以下当中間期)の営業状況をご報告いたします。

連結業績の状況

当中間期は、光学材料部品事業・電子材料部品事業とも売上を伸ばし、利益の大幅な回復を果たしました。結果として連結業績は、売上高が38,225百万円(前年同期比39.6%増)、営業利益が3,867百万円(同169.0%増)となり、また前年における為替差損の計上が為替差益に転じたことなどから、経常利益は3,907百万円(同321.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,722百万円(前年同期は34百万円)と、いずれも期初の予想を大きく上回りました。

セグメント別の状況

光学材料部品事業では、光学フィルムカテゴリーがノートPC用ディスプレイ向け製品の伸びに加え、車載用途を含めた需要増加が続き、大幅な増収増益となりました。光学樹脂材料カテゴリーは、精密接合用樹脂が伸び、円安が利益面に

寄与したものの、スマートフォン向けなど既存のSVRの売上が減少し、減収増益となりました。

以上により光学材料部品事業は、売上高が20,128百万円(前年同期比65.5%増)、営業利益が1,552百万円(同80.4%増)となりました。

電子材料部品事業では、接合関連材料がスマートフォン向けに採用された熱伝導シートや熱硬化性接着テープの貢献により増収増益となりました。また、同じくスマートフォン向けの製品需要が堅調だった異方性導電膜カテゴリー、プロジェクター向け無機材料が好調に推移したマイクロデバイスカテゴリーも増収増益となりました。

以上により電子材料部品事業は、売上高が18,202百万円(前年同期比19.0%増)、営業利益が3,214百万円(同117.7%増)となりました。

通期業績予想と配当

当期は、第3四半期以降に光学フィルムカテ

ゴリーにおける基材の変更を予定し、これに伴う仕入価格および製品販売価格の低下を想定していましたが、この変更を延期したため、売上高が計画よりも上振れる見通しです。

加えて先に述べました通り、当中間期の実績が計画を上回る進捗となっていることから、通期の連結業績については、期初の予想数値を7月27日に上方修正し、売上高71,500百万円(前期比14.2%増)、営業利益6,600百万円(同89.0%増)、経常利益6,400百万円(同121.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益4,400百万円(同363.4%増)を見込んでいます。

今回の中間配当は、予定通り1株当たり20円とさせていただきます。期末配当についても同額を予定し、年間配当額は合わせて同40円となる見通しです。

株主の皆様におかれましては、当社グループ事業の発展にご期待いただき、引き続き長期のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

一ノ瀬 隆

連結業績の概要(第2四半期累計期間および通期見通し)

売上高

当第2四半期

38,225 百万円 前年同期比 39.6% 増

通期見通し

71,500 百万円 前期比 14.2% 増

営業利益

当第2四半期

3,867 百万円 前年同期比 169.0% 増

通期見通し

6,600 百万円 前期比 89.0% 増

経常利益

当第2四半期

3,907 百万円 前年同期比 321.9% 増

通期見通し

6,400 百万円 前期比 121.2% 増

親会社株主に帰属する純利益

当第2四半期

2,722 百万円 前年同期は 34 百万円

通期見通し

4,400 百万円 前期比 363.4% 増

独自の強みで自動車の未来を拓き、新たな成長へ

デクセリアルズは、さらなる成長に向けて新領域における事業を推進中です。現在は自動車領域を最重点対象に定め、経営資源を集中し、組織の拡充を図っています。ここではその取り組みについて、自動車事業推進グループ長 新家由久よりご説明申し上げます。

事業機会の広がりを捉え、
収益の柱に育成していきます。

上席執行役員
自動車事業推進グループ
グループ長

新家 由久

技術・製品の親和性が高く、
ポテンシャルが大きい事業として参入

自動車領域に参入する理由は、事業としてのポテンシャルが大きく、当社の強みとの親和性が高いことにあります。これまでも私たちの商品開発テーマの多くが自動車に関連してきました。電装化の進展をベースとする自動車領域の潜在ニーズと、コンシューマーIT分野で培ってきた当社独自の技術・製品が極めて自然にマッチしているのです。

社内の知見を結集し、車載向けに求められる
高品質・高性能を実現

すでに光学材料部品や接合関連材料などが車載用として一部採用されていますが、今後はディスプレイやセンサー用途などに事業機会が広がっていきます。また、自動車の電子化が進むとともにノイズや熱への対策が一層求められ、私たちがエレクトロニクス分野で創り上げてきた技術を数多く活用できるでしょう。

車載向け材料は、過酷な車内環境への耐久性など、高度な品質・性能が求められますが、各事業部の材料開発と兼務する多数のエキスパートの知見を結集し、対応していきます。

技術革新による変化を捉え、
事業戦略をスピーディーに策定・遂行

自動車事業推進グループのミッションは、自動車事業を大きな収益の柱として育成することです。自動車周辺の技術革新は、車そのものだけでなく、移動中の過ごし方も変えていくと予想されます。その変化を捉えるべく多角的に情報を収集・分析し、自らの強みを最大限に活かす事業戦略をスピーディーに策定・遂行していきます。

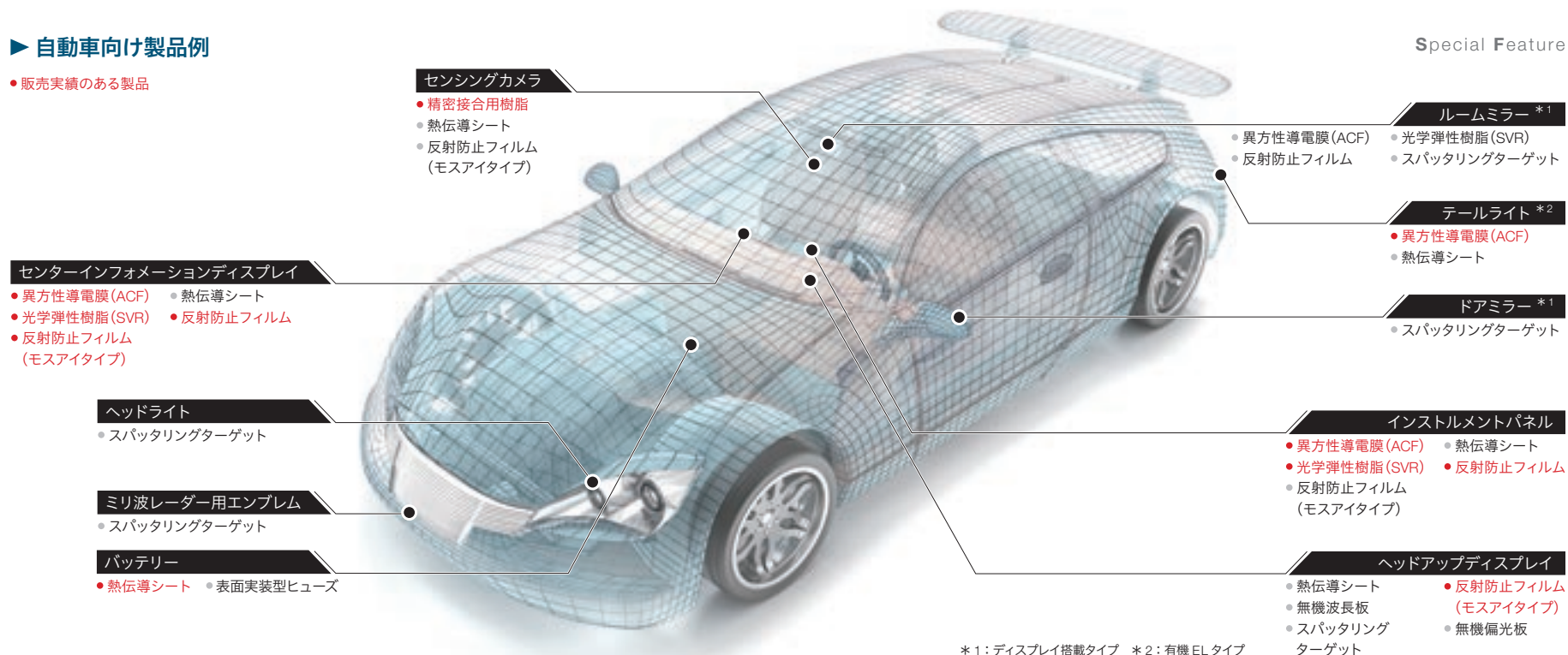
これからの車ってどうなるの？



車内のメーター類やミラーは、液晶や有機ELディスプレイに置き換わると予想されます。1台当たりのディスプレイ搭載数が増え、画面自体も大型化し、安全性の面から外光対策や視認性の向上が求められます。

▶ 自動車向け製品例

●販売実績のある製品



TOPICS

反射防止フィルム: 追加増産に向けた準備が進む

低反射性や防眩性、耐擦過性に優れる当社の反射防止フィルムは、ノートPC・タブレット端末から自



反射防止フィルムの生産をおこなっている栃木事業所4号館

動車のディスプレイ用にも需要が拡がり、急速に成長しています。反射防止フィルムの主力生産拠点である栃木事業所では、さらなる需要の増加を受けて今下期からの追加増産を2017年4月に決定しました。

現在、生産設備の搬入・設置などをおこなっており、一段の事業成長に向けた準備が順調に進んでいます。

欧州子会社がフランクフルト支店をオープン

自動車業界のトレンドを牽引する欧州で事業を展開するデクセリアルズヨーロッパは、多くの有名自動車メーカーが拠点を置くドイツでマーケティング機能を強化すべく、2017年7月にフランクフルト支店を開設しました。

同支店は今後、欧州自動車業界における技術革新の最新動向を捉えながら営業アプローチを加速し、デクセリアルズブランドの認知・

浸透を図ります。そして当社の自動車事業をグローバルに拡大し、成功させるための取り組みを先頭に立て進めていきます。



フランクフルト支店の開所式の様子

熱を素早く逃し、ICチップの活躍を支える機能性材料

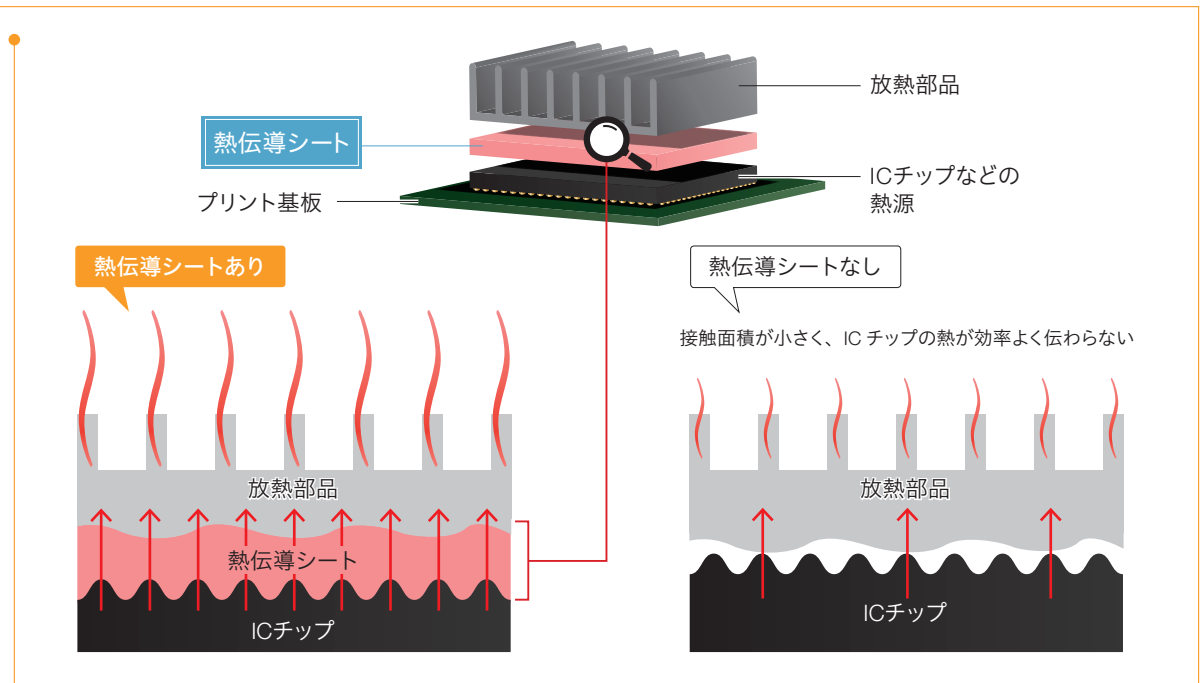
ICチップに熱伝導シートが必要な理由

あらゆる分野のエレクトロニクス製品において、ICチップ(集積回路)は電子回路の中核を成し、複雑な情報処理を担っています。昨今のエレクトロニクス製品は低消費電力化が求められるため、部品の統合が進み、1つのICチップが複数の処理を並行しておこなっています。さらに、通信の高速化に伴い、ICチップが処理する情報量が膨大に増え続け、ICチップの発熱量が

増加しています。

ICチップが正常に動作する上限温度は約85℃～125℃で、この温度に近づくと処理速度を低下させ、温度を下げます。したがってICチップの性能をしっかりと発揮させるには、熱を素早く逃がして、温度上昇をおさえる必要があります。

その役割を果たすのが熱伝導シートで、ICチップの熱を放熱部品(ヒートシンクや金属のカバーなど)に伝える機能を有しています。



熱伝導シートのメカニズムと市場規模

ICチップも、ヒートシンクなどの放熱部品も、ミクロレベルで見るとその表面に凸凹があるため、互いに押しあてただけでは密着せず、熱がなかなか伝わりません。また熱が加わるとそれぞれの表面に反りが発生し、接触面積が小さくなることで余計に熱が伝わりにくくなります。

熱伝導シートは柔軟性があり、ICチップと放熱部品の間に挟み込むことで密着し、素早く効率の高い熱伝導を可能とします。

このような背景から熱伝導シートの需要は今後さらに拡大し、市場規模[※]は2016年の334億円から2021年には672億円に倍増すると予想されています。

※出典：富士経済研究所「自動車分野、産業分野の需要増加が進む熱制御・放熱部材の世界市場を調査」



熱伝導シート

独自技術で実現した業界最高水準

当社の熱伝導シートは2004年にシリコンタイプが発売され、最初は薄型テレビの駆動ICに採用されました。現在では「シリコンタイプ」「アクリルタイプ」「炭素繊維タイプ」をラインアップし、ベースの素材／ICチップの放熱量／熱伝導率／柔軟性などをもとに、用途に合わせて製品を選んでいただけます。

特にハイエンド製品である炭素繊維タイプは、独自の技術で業界最高水準の熱伝導率を実現しています。金属の何倍も熱伝導率が高い炭素繊維を、シリコン樹脂の中に向きをそろえて充填することで厚み方向に熱を素早く伝える能力と柔軟性を保つことを両立しました。

炭素繊維タイプは熱伝導率が当社のシリコンタイプの最も高いものに比べて約3.5倍、アクリルタイプの約9倍の性能を実現しています。

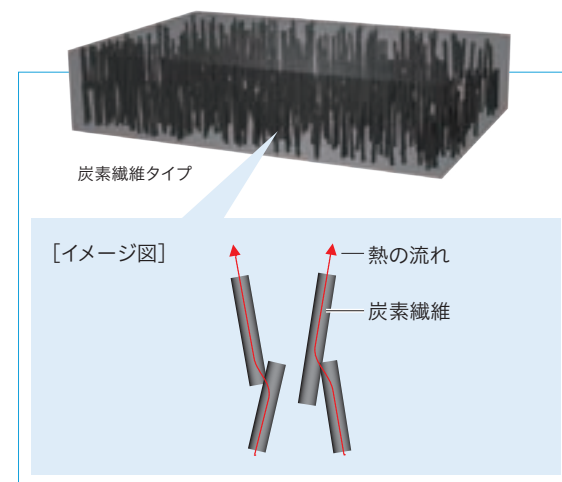
業績に貢献、自動車領域でも採用へ

炭素繊維タイプの熱伝導シートは、これまで放熱量の多い無線通信基地局や、サーバーなどに搭載される大規模集積回路の放熱に使われていましたが、2016年度後半からスマートフォンにも採用され、業績に大きく貢献しています。2016年度は熱伝導シートの売上高が2015年度の2倍に

拡大し、2017年度は3倍超となる見込みです。

一方、自動車領域においても、発熱の影響でエネルギー効率が低下してしまうリチウムイオン電池や、自動運転に必要なカメラの膨大な画像処理をおこなう車載グラフィック用ICチップの放熱材などへの採用が期待できます。

今後も各分野で熱対策の重要性も一層高まっていくことが想定され、私たちは、よりよい製品づくりを通じて世の中に貢献し、事業の拡大を目指していきます。



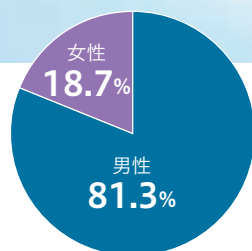
株主様アンケート結果のご報告

回答数 **3,324名** 回答率 **12%**

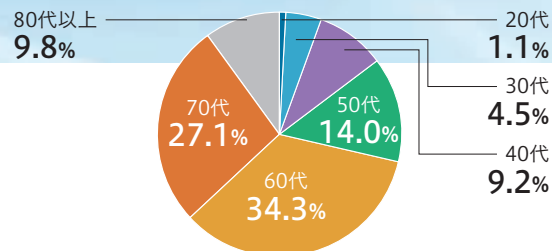
アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

Dexerials Talk vol.4 にてお願いいたしましたアンケートに、大変多くの株主様より回答をお寄せいただきました。当社では、株主様の当社への期待の大きさを真摯に受け止めるとともに、いただいた貴重なご意見・ご要望を、今後の経営とIR活動に活かしていきたいと考えております。

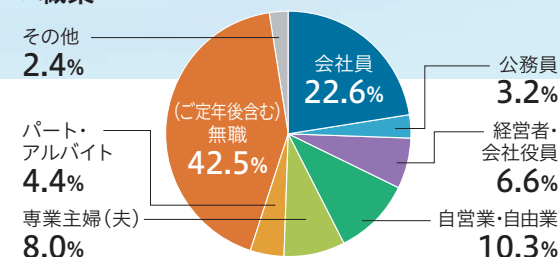
● 性別



● 年齢

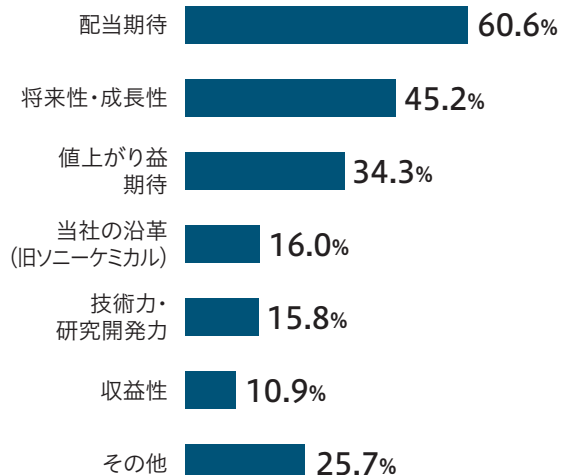


● 職業



Q

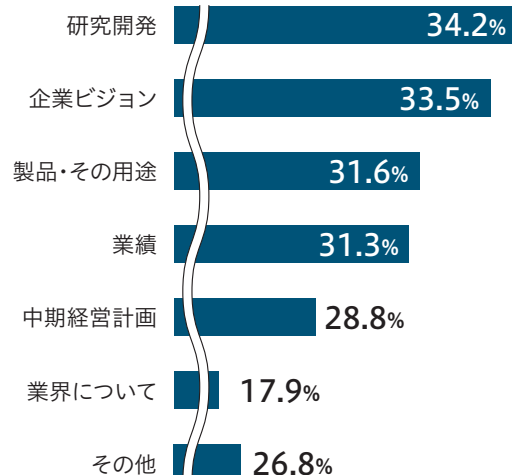
当社株式取得の決め手となった項目として、近いものをお聞かせください(複数回答可)



※総回答者数(3,324名)を母数として割合を算出しています。

Q

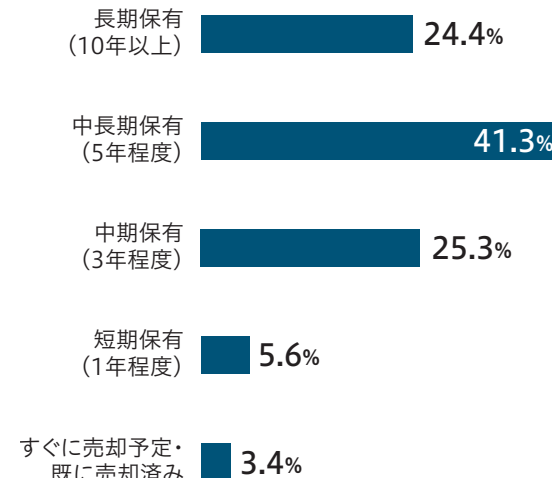
当社について知りたい情報をお聞かせください(複数回答可)



※総回答者数(3,324名)を母数として割合を算出しています。

Q

当社株式の今後の保有方針についてお聞かせください



アンケート結果の ポイント

■当社株式取得の決め手となった項目については、配当を重視されているほか、当社の将来性・成長性に多くの株主様より期待をお寄せいただいております。

■当社の情報については、項目ごとの偏りはなく、どの項目についても当社の情報発信を求められておりますが、その中でも研究開発についての情報への関心が高いことがうかがわれます。

■当社株式の今後の保有方針につきましても、90%以上の株主様が3年以上の保有の方針ということで、大部分の株主様が中長期保有志向という結果でした。

お寄せいただいたご意見にお答えいたします。



認知度を上げて
ほしい

A

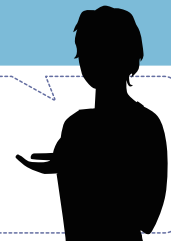
昨年度においては延べ430名の個人投資家の皆様にお会いいたしました。今年度は、個人投資家説明会に加え、大型のIRフェアへも積極的に参加させていただいております。今後も認知度の向上に取り組んでいきます。



A

現行の中期経営計画を確実に達成することに加え、上記でお答えしたように当社を知ってもらうためのIR活動を積極的に推進し、適正な株価の形成に努めていきます。

株価を上げて
ほしい



製品を
分かりやすく
教えてほしい

A

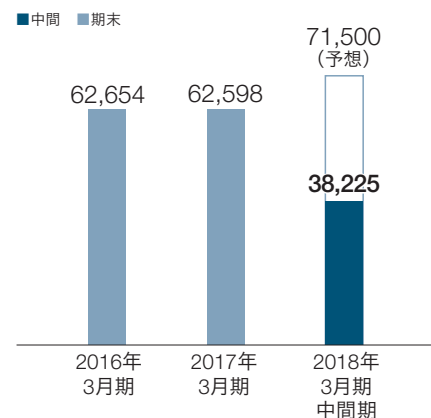
株主通信やホームページにて主要製品について説明記事を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。今後も、平易な言葉での説明を心がけてご紹介していきます。



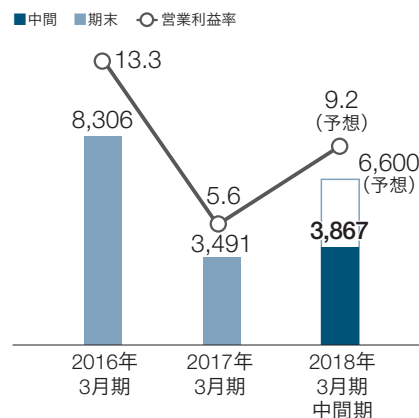
▶ 貴重なご意見を踏まえ、今後の情報発信においても参考にさせていただきます。

連結財務ハイライト

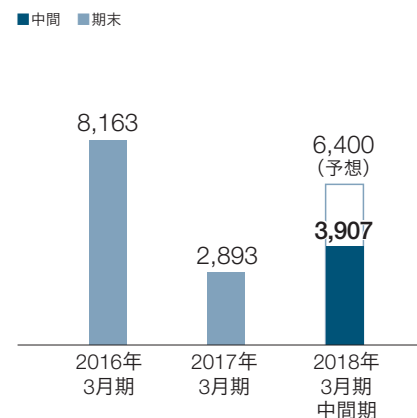
売上高 (百万円)



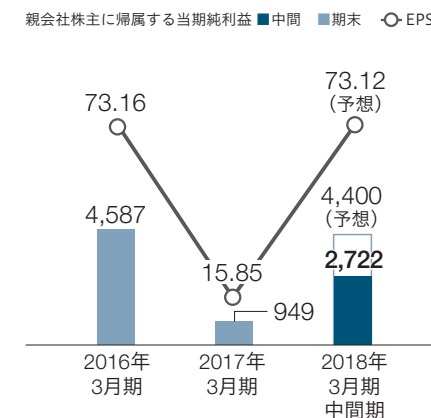
営業利益 (百万円) と営業利益率 (%)



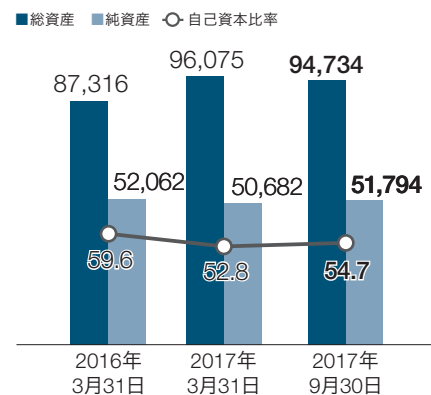
経常利益 (百万円)



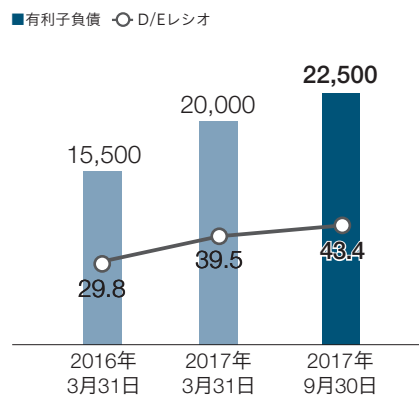
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)
年間EPS (円)



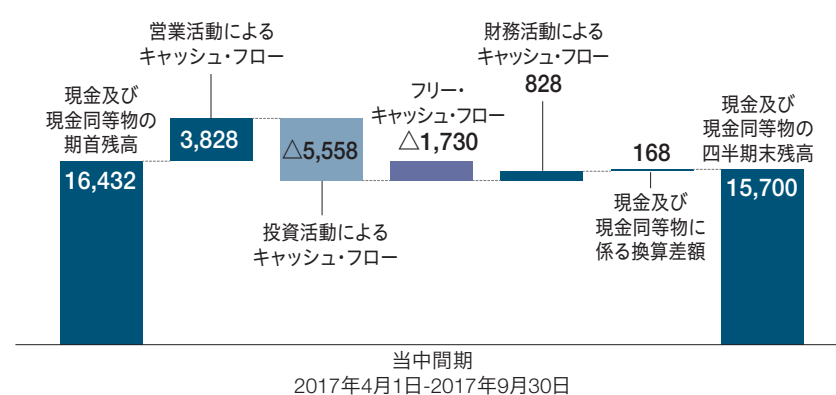
総資産 (百万円) 純資産 (百万円) 自己資本比率 (%)



有利子負債 (百万円) D/Eレシオ (%)



キャッシュ・フロー (百万円)



▶ より詳細なデータについては当社サイト「IR情報」ページをご参照ください。

WEB <http://www.dexerials.jp/ir/>

デクセリアルズ IR 検索





デクセリアルズの ここに注目!!

「調整後の利益が当社の実力値」

当社は、重要な経営指標として調整後(のれん償却前)の数値を用いています。

2012年の独立時に旧親会社に支払った買付金額と当社の簿価(帳簿上の価値)の差額である約360億円を「のれん」として貸借対照表に計上し、20年間でこれを均等償却しています。

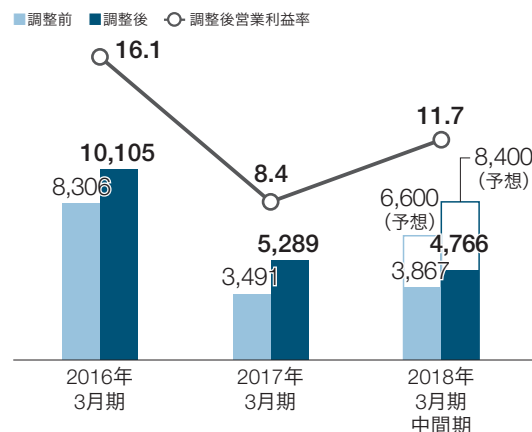
この結果、営業利益が每期約18億円減額されていますが、のれん償却はキャッシュ・フローに影響を与えないため、調整後の利益が当社の真の実力値であると言えます。

このため、当社では上場当初から損益計算書の営業利益にのれん償却相当額を足し戻し、「調整後営業利益」として開示しています。

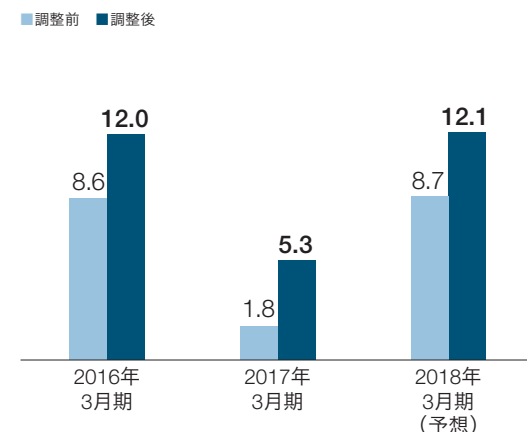
また、「当期純利益*」についても同様にのれん償却相当額を足し戻し、あわせて「調整後ROE」も開示しています。

*親会社株主に帰属する当期純利益に読み替え

調整後営業利益(百万円)と営業利益率(%)



調整後ROE(%) (株主資本当期純利益率)



2018年3月期業績予想について

第1四半期決算発表(7月27日公表)において、上半期および通期業績予想の上方修正を発表しました。詳しくは、当社HPに掲載の決算資料をご覧ください。

(単位:百万円)

	上半期予想		上半期実績		通期予想	
	2017年 4月27日公表	2017年 7月27日公表	2017年 10月30日公表	2017年 4月27日公表	2017年 7月27日公表	
売上高	35,000	37,000	38,225	64,000	71,500	
営業利益	2,400	3,700	3,867	5,300	6,600	
経常利益	2,300	3,600	3,907	5,100	6,400	
当期純利益*	1,500	2,500	2,722	3,000	4,400	
調整後						
営業利益	3,300	4,600	4,766	7,100	8,400	
当期純利益*	2,400	3,400	3,621	4,800	6,200	
EPS(円)	39.94	56.58	60.24	79.89	103.04	
ROE(%)	—	—	—	9.3	12.1	

会社概要／株式の状況 (2017年9月30日現在)

会社概要

商 号 デクセリアルズ株式会社
(英文名:Dexerials Corporation)
設 立 2012年6月20日
資 本 金 15,869百万円
本 社 所 在 地 東京都品川区大崎一丁目11番2号
従 業 員 数 2,124名(連結)(2017年3月31日時点)

取締役・監査役

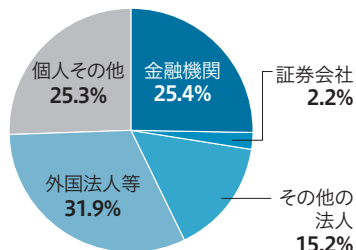
代表取締役社長	一ノ瀬 隆	取締役*	横 倉 隆
代表取締役	安 藤 尚	取締役*	高 松 和 子
取締役	永 瀬 悟	常勤監査役*	佐 竹 俊 哉
取締役*	平 野 正 雄	監査役*	高 田 敏 文
取締役*	藤 田 浩 司	監査役*	佐 藤 り か

*会社法に定める社外取締役、社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株
発行済株式の総数 63,436,800株
株主数 24,359名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
積水化学工業株式会社	5,040,000	7.94
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,822,700	6.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,281,200	5.17
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	3,218,000	5.07
大日本印刷株式会社	3,125,000	4.93
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,488,974	3.92
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	1,932,200	3.05
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	1,320,100	2.08
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY - PB	1,091,200	1.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,039,500	1.64

デクセリアルズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F
TEL (03)5435-3941

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
1単元の株式数	100株
証券コード	4980
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料)
連絡先・郵便物送付先	郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

手続きに関するご案内

住所・氏名の変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定などの手続きは、口座を開設されている証券会社へご連絡ください。
相続などによる株式所有者の変更は、株主名簿管理人および口座をお持ちの証券会社にご連絡ください。

公告方法

電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.dexerials.jp>

株式に関する手続きのご案内

お取扱窓口

支払明細の発行、未払配当金のお支払い等については、以下の連絡先にお問い合わせください。

お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-232-711(通話料無料)
(土日祝祭日等を除く平日9:00~17:00)
上記電話番号をご利用いただけない場合
03-6701-5000(通話料有料)

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油
インキを使用しています。